

## 2 街路の構成

モンフー集落を例に、街路構成を詳細に検討しておこう。現在のモンフー集落の街路は、東西、南北に通るグリッド状の街路と、複数の袋小路によって形成されている。街路は集落の外周付近で折れ曲がっており、集落外へのアプローチは迷路状の様相を呈する。

ただし、こうした街路構成の印象は、20世紀後半におけるスプロールによって集落規模が拡大した結果、形成された部分からもたらされる面もあり、必ずしも集落が本来有していた特性とは言い難い。

**主要街路** 20世紀前半段階におけるモンフー集落の規模と、門の位置を示したのが、図5-7である。この図によれば、モンフー集落は、ディン前広場の南面を東西に走る街路と、そこに直交するディンからの南北街路の2つを軸として構成されていることが明確に窺える。

これらの街路を地形図と重ねてみると、微地形を活かして街路が配置されていることもわかる。すなわち、東西街路は、モンフー集落が位置する微高地の尾根上に配されている。

街路と空間単位の関係については、現在の空間単位となっているソムの境界から窺うことができる。ソム境は、敷地背後の背割り線に沿って設けられる

ことが多く、街路を中心とした両側でソムの単位が形成されていることになる。つまり、街路を軸とする線形空間が、モンフー集落の空間単位をなしている。

ただし、主屋配置の状況をみると、明らかに東西及び南北の主要街路を境にして、ブロックごとに配置のルールに一定のまとまりがみられる(図5-8)。とりわけ、東西街路の西半部では、街路南の地区全体が主屋を南向きに、街路北の地区では主屋を東向きに配しており、明確に性格が分かれており、東西街路を境に、北と南とで開発時期を異にする、と考えるのが自然であろう。すると、集落の成立当初は、街路によって囲まれたブロックを空間単位とし、街路が空間単位の境をなしていたこととなろう。東西主要街路は、現在は集落の中心軸をなしているが、当初は集落の外縁部を限る街路であったかもしれない。

東西街路の南には、平行してもう一本の街路が通る。ブロック単位の開発の第二段階とみられよう。袋小路が多数設けられるよりも早期に、この東西街路が通され、次の段階として各袋小路が延ばされていったものと推定される。その後、袋小路によるミニ開発が重ねられ、当初のブロック単位の空間分節が、街路を中心とする両側町の形態へと変化していったのであろう。

結果として、モンフー集落の街路構成は、1本の主要街路を軸に袋小路が枝分かれするという形式で

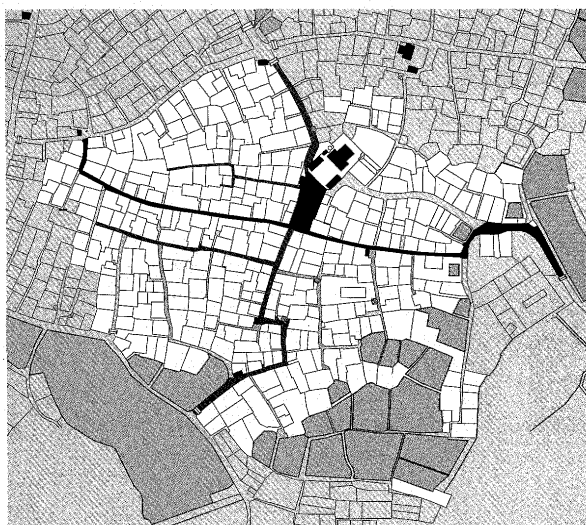


図5-7 モンフー集落の街路形成過程(濃色→淡色の順)

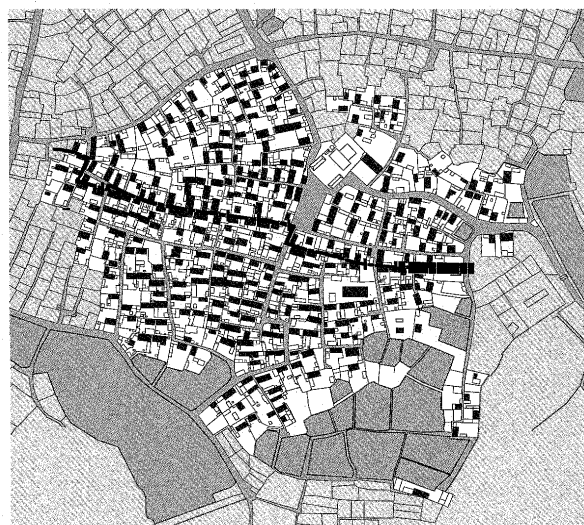


図5-8 モンフー集落の主屋配置

はなく、複数の街路を平行して通し、そこに袋小路が複雑に絡む様相をみせることとなった。

**袋小路** 村内には袋小路が複数設けられている。実際には、主要道路からの枝道として設けられているものがほとんどで、集落内の開発過程を示す痕跡として理解するべきであろう。

数ある袋小路の中でも、ソム Hauは、ソム全体が一つの袋小路として形成されている点で、特殊である。ディン前広場に面して門を設け、ソムへの唯一の入り口としている。しかし、このソムも、かつては最奥部が閉じずに、ソム Heへ抜ける構造となっていた。後に2軒の住宅が設けられ、袋小路化した。

このソムの街路構造は、テト期間中、ディンの前を葬列を通すことができない、という儀礼上の習慣と関連しているとされ、ソム Hauにとっては、奥から抜ける街路を確保することが不可欠であった。ここがふさがれたのは、この儀礼が無実化し、より利便性を求める意識が高まったことによるものである。

その他の袋小路については、空間的なまとまりを持っている。例えば、ソム Xui中央を北から南に通る袋小路は、元来、何族の族長家の所有地で占めら

れていた。敷地背割り線も直線で通っており、一括の開発であったことが知られる。

以上より考えるに、袋小路は、主要街路からの支道を設けることで、新たな居住空間を生み出した開発単位であり、ブロック単位での開発による集落拡大に対し、より小規模に集落を細分化していく行為だったとみられる。

**ディン前の広場** 広場は古くより設けられていたという。かつてここは草地であったが、現在は舗装されている。他集落の例では、ディン前には広場を設けないケースもある。

**20世紀以降の拡大** 20世紀に入り、集落域が拡大され、集落の周囲を取り囲む竹藪、池が徐々に取り払われていった。拡大の方法は、既往の集落開発の延長上にあり、街路沿いの宅地建設、袋小路の延長、池の埋め立て、という方法によっている。

拡大の結果、集落の門が撤去され、竹藪も失われ、外部に対して、閉鎖的な構えを採る集落の基本構造が見えにくくなった。ただし、その基本的な骨格は厳然と残されており、必要であれば回復することが可能である。

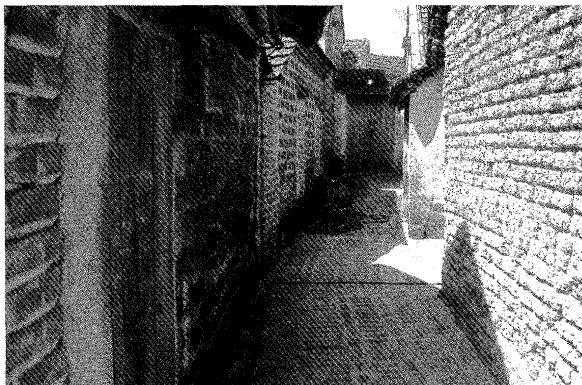


図5-9 袋小路の道



図5-10 矩折れの道



図5-11 ディン前の広場（北からみる）

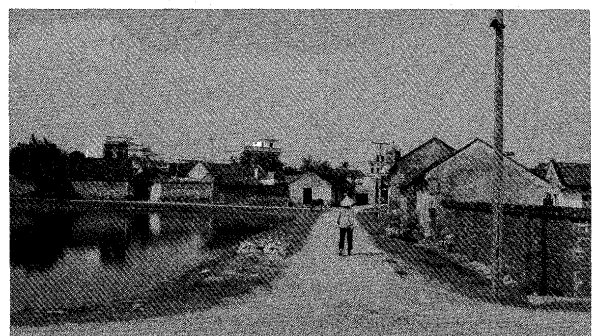


図5-12 南の門跡